



平成29年12月28日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス  
代表者名 代表取締役社長兼CEO 此下 竜矢  
(コード2388 東証JASDAQ市場)  
問合せ先 開示担当 小竹 康博  
(TEL 03-6225-2207)

## 財務報告に係る内部統制の開示すべき重要な不備に関するお知らせ

当社は、金融商品取引法第24条の4の4第1項に基づき、関東財務局に提出する平成29年9月期の内部統制報告書において、開示すべき重要な不備がある旨を記載いたしますので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 開示すべき重要な不備の内容

当社グループの重要な連結子会社である Group Lease PCL. (以下「GL」という。)において、当連結会計年度末日後に、以下に記載の事象が発生したことから、当社では当該事象に関する調査、検討を実施する必要性が生じ、当社が平成29年11月14日に予定していた平成29年9月度(第16期)の決算開示を行うことが出来ませんでした。

当該事案の主な内容といたしましては、タイSECが、平成29年10月16日付で、タイ法務省特別捜査局(以下「タイDSI」という。)に対し、GL元最高経営責任者(CEO)であった此下益司氏が偽計及び不正行為を行った可能性を指摘し、同氏に対して調査を進めるようタイDSIに対し申し立てをしたことを公表したことによるものです。

調査の対象となった取引は、GLの連結子会社である Group Lease Holdings PTE. LTD. (以下「GLH」という。)が貸主となり、キプロス及びシンガポールの借主に対する54百万USドルの融資取引(以下「GLH融資取引」という。)が、此下益司氏の指示により貸主グループ会社間で送金され、最終的にGLHへの分割弁済に充当されていること、また、そのGLH融資取引に係る年利14~25%の利息収入が過大に計上されることで、GLの連結財務諸表は適正な開示を行っていないというものです。

当該事案は、タイDSIの調査の結果、刑事告訴に繋がる可能性が含まれており、これにより、此下益司氏は、GLの取締役並びに経営者の資格を喪失し、同日付けでそれらの地位を退任することとなりました。

当社グループでは、これらの事象に対して、GLにおいて、問題となるGLH融資取引の特定を進めるためにタイSECに対し照会等を行うなど、該当期間の財務諸表並びにGLH融資取引に関して、調査及び見直しを進めてまいりました。

さらに、当社は、GLH融資取引の実態、取引の適正性を調査するため、平成29年11月17日に、第三者委員会を設置することを決議し、第三者委員会の調査に全面的に協力してまいりました。そして、平成29年12月12日には、第三者委員会の中間報告書を受領しましたものの、タイSECの指摘の根拠を特定するには至りませんでした。

当社では、第三者委員会の調査結果や当社監査人の監査進捗等を踏まえ、現時点における最大限のリスクを加味した財務諸表を作成することとし、平成29年12月14日に平成29年9月期の年度決算に開示をすることとなりました。

当社グループといたしましては、引き続き、タイSECやタイDSIに対し、当社グループの正当性を主張しつつ、タイDSIの捜査に全面的に協力してまいります。

上記のとおり、海外連結子会社GLHの特定の融資取引に対する疑義に関し、当社の財務報告は、親会社としてタイムリーに説明可能な状態となっておらず、平成29年9月度（第16期）の決算開示を遅延せざるを得ない状況でした。

これらのことから、GLHの特定の融資取引に関連して、親会社としての海外子会社管理・情報収集管理体制や決算財務プロセスには不備があると評価致しました。

## 2. 事業年度末日までには是正できなかった理由

上記の財務報告に係る内部統制の開示すべき重要な不備が、当社事業年度末日までには是正できなかった理由は、上記の事象が等事業年度末日後に生じた為であります。

## 3. 開示すべき重要な不備の是正方針

当社は、海外連結子会社からの情報収集機能を向上させるべく、新たな情報収集手続きの確定及び人員体制の強化を実施することで、適正な内部統制を整備・運用して参ります。

当社といたしましては、当社グループ全体として有効な内部統制の整備、運用及び評価体制を構築し、財務報告の信頼性を確保してまいります。

## 4. 連結財務諸表等に与える影響

上記の開示すべき重要な不備に起因する財務諸表への影響につきましては、まだ特定はできていないものの、現時点で考えられる最大限の内容を、平成29年9月期の有価証券報告書に反映させております。引き続き事態の收拾に最善を務めるとともに、ご報告すべき事項が生じた場合には改めてご報告させていただきます。

## 5. 財務諸表の監査報告における監査意見

限定付適正意見となっております。

株主、投資家の皆様をはじめとする関係者の皆様には、多大なるご迷惑とご心配をお掛けしますことを深くお詫び申し上げます。

以上